

旧病院から患者搬送

中東遠総合
医療センター
初日に見学者も

掛川市立総合病院と袋井市民病院を再編統合した中東遠総合医療センター（掛川市菖蒲ヶ池）が開院した一日、名倉英一院長や原田英之袋井市長、松井

三郎掛川市長らが正面玄関前でテープカットし、中東遠地域の基幹病院の門出を祝った。

新施設でのトラブルを避けるため外来予約を制限して診療が始まった。ロビーでは市民らが職員に受診方法などを尋ねる姿が見られ

た。

初日は旧病院から入院患者の搬送もあつ

た。医師や看護師らの付き添いで両病院から九十五人が、救急車や

介護用タクシー、バスなどで約四時間かけてピストン移送された。見学に来た袋井市の竹原周枝さん(七〇)は「とても立派でありがたい」と目を細めた。センターは三十三診療科、五百床。一日の外来診療は千二百人が見込まれている。



患者の搬送作業に追われる職員ら＝掛川市の中東遠総合医療センターで